

1 学校として目指す授業

対話的、主体的な深い学びの実現に向けて、表現活動や課題解決型授業を重視した「考えさせる授業」の実践

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
（数学）目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりしながら事柄が成り立つ理由を説明する問題で正解率が特に低くなっている。 （国語）記述式問題、特に意図や効果を理由付きで説明する問題の正答率が低い。「書くこと」の分野である文章構成や助言の意図に関する記述で無答が目立っていた。読解において、細かい心情の読み取りに弱さがある。 （理科）地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する問題、生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する問題の正答率が特に低かった。	・生活習慣(睡眠・食事)に乱れがあり、健康な生活指導が必要である。 ・平日、休日ともに学習時間が短く、ICT機器の活用も低調である。 ・自己肯定感や将来展望に関する項目は全国平均を下回り、意識育成が課題である。 ・家庭学習、読書、ICT機器の活用など、「非授業時間の学び」の強化が急務である。

(2) 清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（1～3年生）

（1年生） 毎日の学習時間が1時間以下の生徒が大半であり、宿題に取り組む程度の最低限の学習しかしていないことが分かる。演習の時間を増やすことが学習内容の定着につながると思えられる。授業内容がよく分かる、どちらかといえばわかると回答している生徒でも、定期考査では結果を残せていないことが多い。授業内では内容を理解して活動できていても、説明したり、文章にまとめたりすることができないためと考えられるので、アウトプットする機会を増やしていく必要がある。 （2年生） ・自宅学習時間を分析すると、毎日の学習時間が30分未満の生徒が多い。ほとんどの生徒が家庭学習の定着が不十分であると思われる。家庭学習を習慣化できる取り組みが必要である。 ・授業の取組の中で、英語・数学による少人数・習熟度別授業を良いと考える生徒の割合が多い。一方で、授業中に他の生徒と考えを交流しながら課題を解決することや、自分の考えを他者に発表する機会が少ないと思われる。対話的、協同的な学びの時間を増やす必要がある。 （3年） ・意欲や前向きな学習姿勢をもつ生徒が多い一方で、学習習慣や方法に課題をもつ層が顕在化している。 ・学級全体で学習方略の共有や、家庭学習の習慣化を促す指導が必要である。 ・個別には「学び方の定着」「振り返りや計画の仕方の指導」が鍵となる生徒が多く見られる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（2年生）

（国語） 「漢字を読む」ことはできても「漢字を書く」力が弱い。また、「文章を書く」ことが苦手な生徒が多い。朝読書の時間を通して、正しい文章に触れること、日常の場面で漢字を使わせることを意識させたい。その上で「文章の読み取り」等の「考える授業」が展開できると考える。 （数学） 「平面図形」が苦手な生徒が多い。その中でも平面上の直線や点の位置関係について正しく理解できていない生徒や、必要な工程を考えて作図することができていない生徒が多いと考えられる。図形を基礎から復習する時間が必要と考える。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
新体力テストの結果を活用し体力の向上に向けて取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質、能力を育ませていく。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

実際、「学びに向かう力等に関する意識調査」の結果から、家庭学習にける時間が少ないなど家庭学習が定着していない状況は事実である。しかし、我々教師側も今までの授業内容を見直しながら、対話的、主体的な深い学びの実現に向けて「考えさせる授業」の実践に向けて取り組んでいきたい。問題や文章を深く読み取ることができる力を養い、自分の考えなどを表現できる機会を多く作るなど授業の工夫を心がけ、考えなどを共有しながら問題を解決していく協働学習も有効である。また、全校の取り組みとしては朝読書を継続していき、正しい文章、様々な考えに触れ、漢字を身につける力を養っていきたい。
--

4 学校全体の授業改善の視点

「あじみこし」を基盤とした『規律ある授業』と課題解決型の授業など、『考えさせる授業』の指導法の工夫の改善を図り、『授業スタンダードの定着』をねらいとする。また、ICT機器を有効活用し、表現活動を重視した協働学習と授業の「ねらい」の明示や学習の「振り返り」の活動を実践する。
--

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → [教育指導課へ提出する。](#)
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	基本的な漢字の読み書きの定着が不十分で、語彙力に乏しい。教材に出てくる言葉から派生・関連する語句や表現に触れる機会を増やす。文章中のキーワードや接続する語句などに着目して文章の展開や筆者の主張をとらえる活動を充実させたい。		デジタルを用いた協働的な学びの時間を設定し、生徒同士で学び合う機会を増やすことで生徒の理解力や学習意欲を高める。また、資料を活用する機会を増やし、視覚的学習効果を高め、情報活用能力の育成を図る。また、定期的なノート点検で板書の確認・改善を行い、質を高める		授業の目標を明確にし、振り返りを行いながら進めていく。また、計算練習板など反復演習をしながら、小テスト・定期テストなどを目標に生徒に自信をつけさせ、家庭学習の習慣の定着と学習意欲を高めていきたい。		授業の最初にめあてを提示し、最後にめあてが達成できたか確認するふりかえりを行う。また実験、体験等を通して、自然事物や現象に対する興味関心を持たせる。実験が難しい単元はICT教材を使用して視覚や聴覚にうったえる授業を組み立てる。		発声や体の使い方についての指導を繰り返し行うことで、音域に応じた発声や歌詞の発音など、混声合唱に必要な基礎的な技術を身に付けていきたい。鑑賞では、音楽を形づくっている要素に着目させ、聴き取ったことを自分の言葉で表現できるように指導していく。		1時間ごとの目標を明確にする。また、技能向上のために、個別指導を充実させる。制作活動中にも相互に鑑賞時間を設け、言語活動を取り入れることで、表現の幅を広げながら言葉で表す力も高めたい。		1時間ごとの目標を明確にすることや単元の目標をより明確に示し、見通しを持った学習を工夫していく。また、仲間と支えあって活動する経験を増やし、苦手なものにも取り組める力を養わせていく。さらに、段階的な指導を通して、確実な知識・技能の習得を目指していく。		1時間毎の目標を明確にする。基礎的な知識と技能の定着を図り、安全な道具、機器の使用方法を指導する。食品や調理の選択と環境との関わりや地域の食文化等、身近なものから興味を持ち理解する取り組み方を指導する。		①小中連携を意識した音声中心の授業の中で、自己の課題解決等のために、ICTや図書室を活用できた。 ②毎時間の目標を明確にし、自分の考えを表現する協働学習の場を多く設けて、生徒に自己肯定感を持たせたい。		自己肯定感の低下や他者否定が多くなりがちな時期なので、道徳の教材の人物や出来事に触れて、自分や他者の行動を振り返り自他を大切にすることを育てる。ICT教材を利用して、お互いの意見交流を活性化させる。	
2学年	基本的な漢字・語句の意味等、国語常識が不足している生徒が多い。受験に向けて、漢字の読み方や言葉の意味を確認しながら文章を読み、基本知識の徹底を図りたい。また、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる力を伸ばしたい。		毎時の授業内容に基づき、全体授業・グループワークなどでデジタル教材を用いる協同作業などを増やし、生徒の思考・判断・表現の力を伸ばす。また、資料の読み取り問題を通して、多角的・多面的に思考できるよう指導していく。		授業の目標を明確にし、振り返りを行いながら進めていく。関数や図形単元ではデジタル教科書を活用し、視覚的にも捉えさせたい。計算テスト・単元テストなどを通して達成感をもてるようにする。		身近な生活や社会とのつながりを実感できるように、日常生活やニュース、自然現象と結び付けた授業を行う。観察、実験を通して自分で気づく体験を重視する。教科書の基礎、基本の内容を定着させる。		楽譜の中の強弱記号や歌詞の内容の表現方法を丁寧に指導する。そして、互いに演奏発表する場をつくることで演奏を客観的に捉え、音楽的な要素を用いて互いに評価し合うことで、音楽表現の仕方を自ら考え、演奏する力を伸ばしたい。		取り組んだことが結果として見やすい課題を用意し、段階的に技能が身に付いていくように工夫をする。完成までの道のりの全体像をつまみながら、毎時間小さな目標を設定し意識させる。		生徒自らがどのような力を身に磨けていけばよいかを考え、自らその力の獲得に向けた授業内での取り組み方を工夫できるよう課題を設定していく。また、身に付けた知識、技能をどのような場面で生かすことができるかを例示しながら提示し、より単元のねらいに迫った活動ができるようにする。		今日の課題としてエネルギー関係についての知識を深め、模型を活用した課題解決型のグループワークを行う。衣服を買うときの知識を持たせ、日常的な手入れの仕方を自分で選択できるように指導する。		毎時間の授業の目標を明確にし、基本を重視し、ICTを活用しながら、基本的なコミュニケーション活動に必要な音声や表現、文法などを習得し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていく。		昨年に引き続き、意見交換をしていく中で自分の考えをしっかりと持てるよう判断力をより育成させていきたい。また、ICTを活用した授業を通して意見交換を効率よくできるように取り組んでいきたい。	
3学年	基本的な漢字・語句の意味等、国語常識が不足している生徒が多い。受験に向けて、漢字の読み方や言葉の意味などの基本知識の徹底を図りたい。また、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめ、表現する力を伸ばしたい。		毎時の授業でスライドを用いながら視覚資料を提示し、生徒の知識の定着を図る。また、毎時の授業の最後および単元の最後に振り返りや発問へ取組ませるほか、現代社会の課題等をグループワークで話し合う機会を設けることで、自分の考えをまとめ、表現する力を伸ばす。		関数や図形単元ではデジタル教科書を活用し、視覚的にも捉えさせたい。また習熟度別少人数授業での利点を活かして、授業中により多くの個別支援を行っていく。休み明けテストなどを通して達成感をもてるようにする。		図や動画、実物を活用し、視覚的に理解しやすい授業を構成する。教科書の内容を身近な事例と結びつけ、理科への興味を喚起する。実験や観察の機会を増やし、予想→結果→考察の過程を重視することで「根拠をもとに説明する力」を育てる。さらに結果を共有し、意見交換を通じて多様な考え方に触れる活動を取り入れる。ICTを効果的に活用し、表現活動や振り返りを重視することで学び方の定着や家庭学習習慣の向上につなげる。		歌唱や器楽では音楽記号や曲想の変化に注目させ、それらを表現するための技能を伸ばしていきたい。その際、自分の演奏を録音したり、互いに聴きあったりして、より良い音楽表現について考えさせるとともに、成長を実感できるように指導したい。		発想・構想時に様々な角度からイメージを膨らませてから表現できるように、生徒同士の意見交換の場を設ける。言語活動からイメージの具現化ができる活動を増やす。また、制作後の鑑賞・自己評価の活動も充実させる。		高校への接続や生涯にわたってスポーツに親しむ力を養わせるために、生徒が自主的に教えあったり、支えあったりすることができるような活動の場を工夫していく。また、より発展的な知識・技能の獲得を目指し、課題に応じた活動の場を設定したり、工夫したりしていく。		身の回りの課題を見出し、AIアプリ等でどう解決できるか、ウェブサイトの仕組みを身に付けながら取り組む。自分や家族の生活について、課題を見つけ工夫させると共に、幼児の生活の発展に応じた必要な条件を学ばせる。		ICT機器を活用して、「書くこと」に特化した授業を行うことができた。2学期以降も授単元ごとに技能領域を絞り込み、指導目標・言語活動・評価の整合性が図られた授業を行う。		様々な考えや題材に触れることができた。ICT機器を活用して、自分の考えをグループやクラスで効率良く共有することが課題である。	